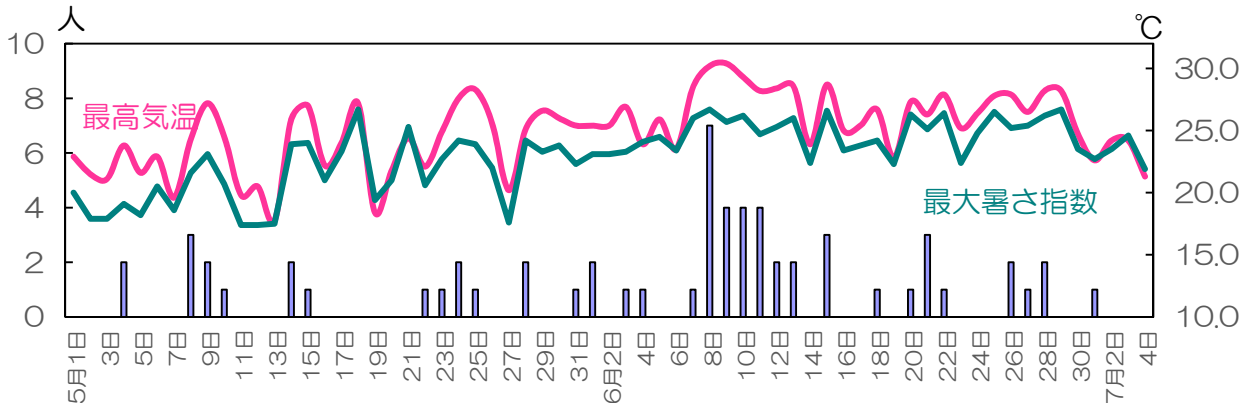


熱中症情報

<搬送数>

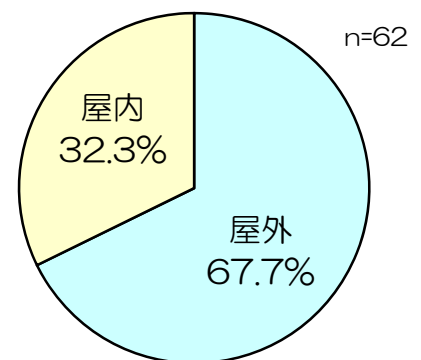
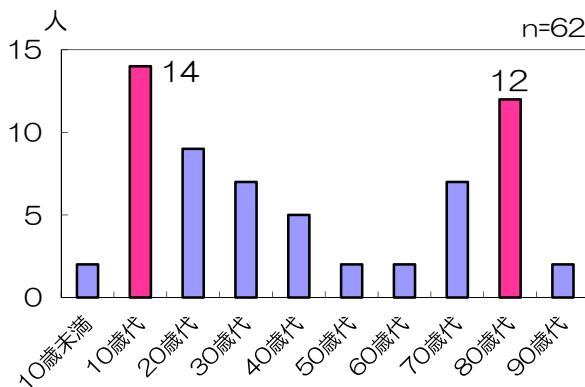
令和3年5月1日～7月4日までの搬送数（消防局データを使用）は、計62人（5月19人、6月42人、7月1人）でした。6月に入り、気温も高くなり、最高気温が25℃を超える日が多くなっています。6月上旬は30℃を超える日もあり、搬送数も増加傾向でしたが、6月22日以降、0～2人/日と少なくなっています。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。昨年引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



暑さ指数とは？ 人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別> 10歳代が14人(22.6%)で最も多く、**<発生場所>** 屋外67.7%、屋内32.3%で、次が80歳代12人(19.4%)でした。屋外での発生が多くなっています。



<重症度> 軽症72.6%、中等症25.8%、重篤1.6%でした。高齢者(65歳以上)の中等症以上の割合が45.4%と、高くなっており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

